

東京都市計画道路幹線街路環状第4号線 (港区港南一丁目～同区高輪三丁目)

令和5年10月2日(月)

建設局 道路建設部

都市整備局 市街地整備部

目次

1. 事業概要	1
2. 社会経済情勢等の変化	6
3. 事業の投資効果	8
4. 事業の進捗状況と見込み等	12
5. コスト縮減等	14
6. 対応方針（原案）	15

1. 事業概要(1)

[全体概要]

路線名：環状第4号線

区間：港区港南三丁目
 ～江東区新砂三丁目

延長：約 29.9 km

[今回評価区間]

区間：港区港南一丁目
 ～同区高輪三丁目

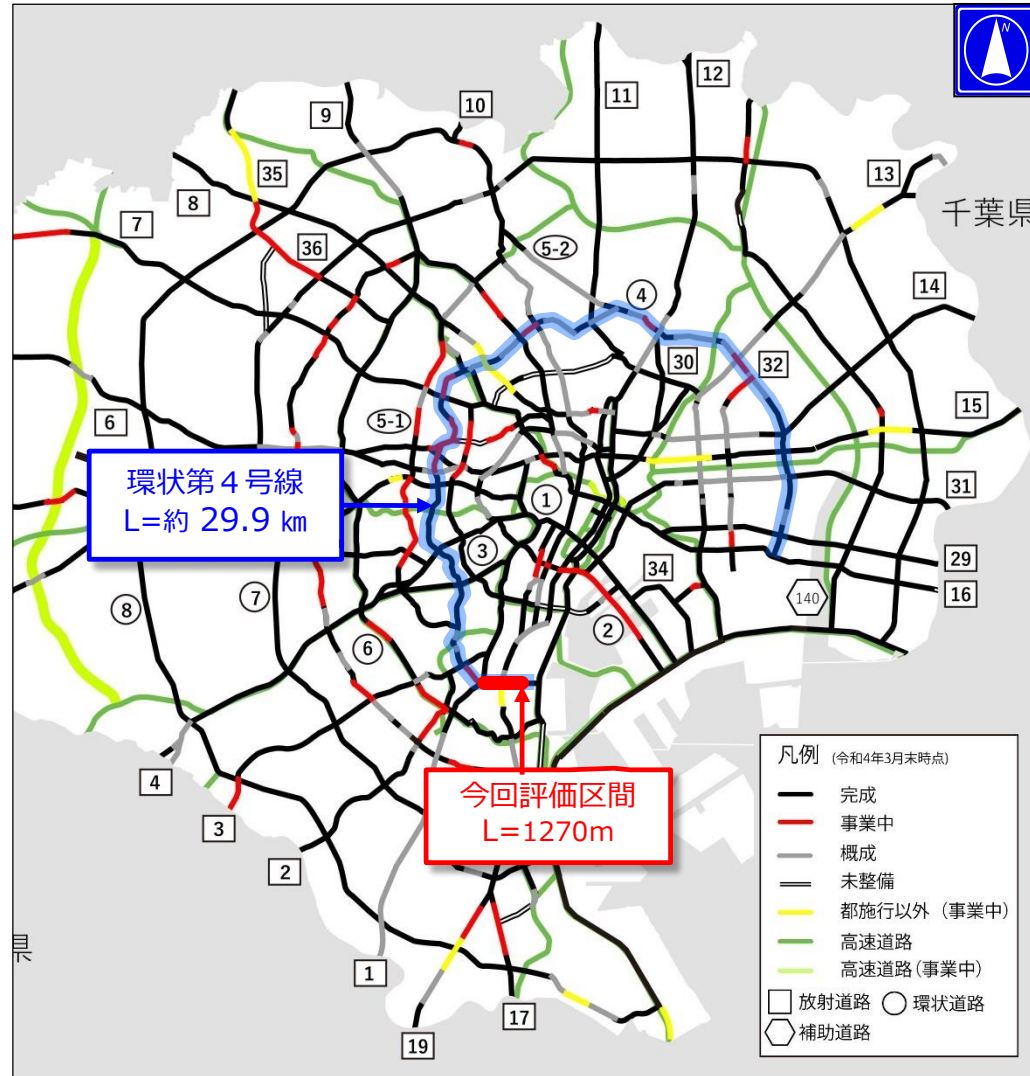
延長：1.27 km

幅員：25.6 m ～ 33.5 m (4車線)

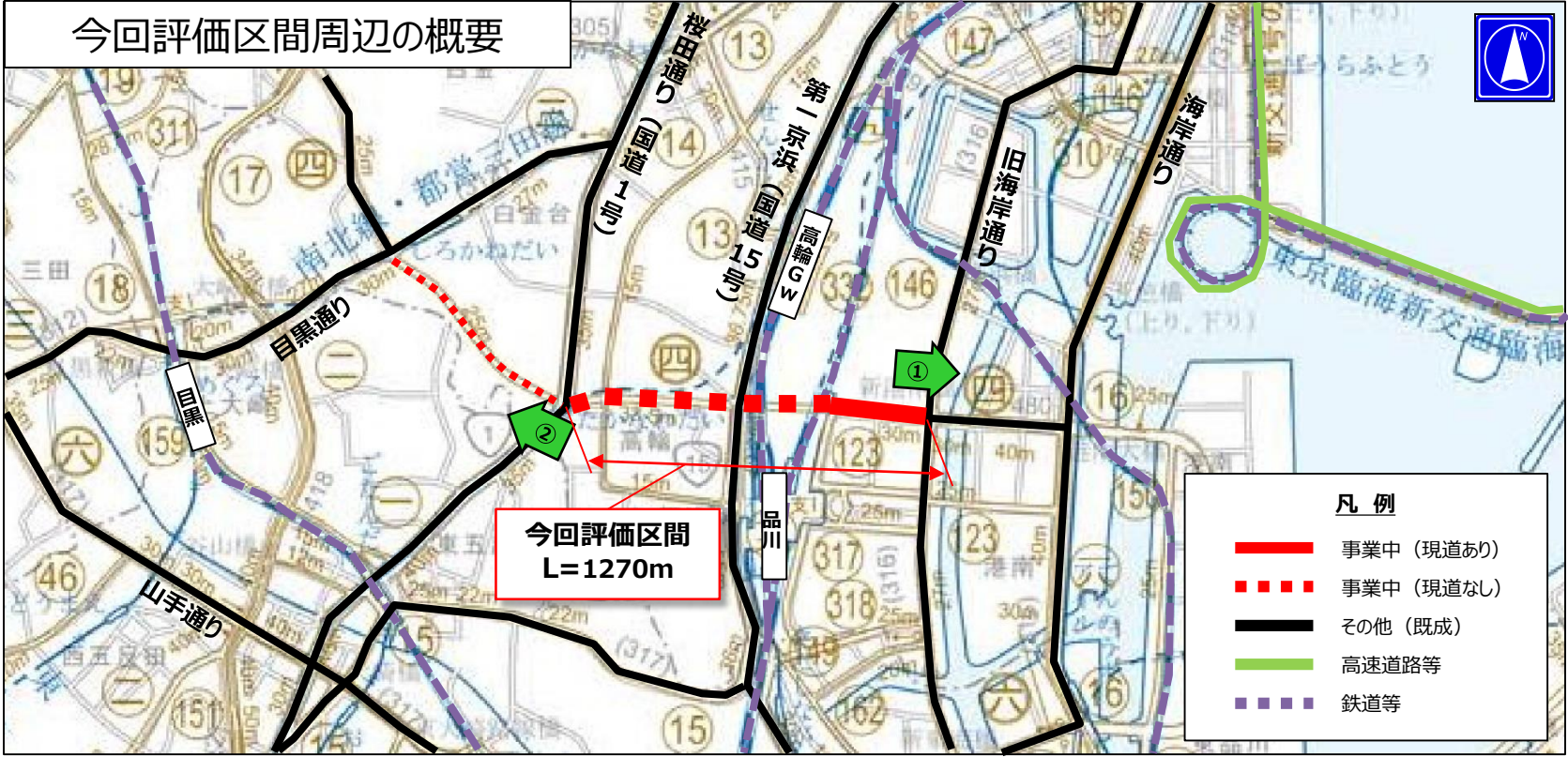
事業費：約 875.5 億円

年度	計画等
昭和21年 3月26日	都市計画決定
昭和39年 2月 7日	都市計画変更※1
平成30年12月21日	都市計画変更※2
令和 1年 7月 9日	事業認可取得
令和15年 3月31日	事業認可期間

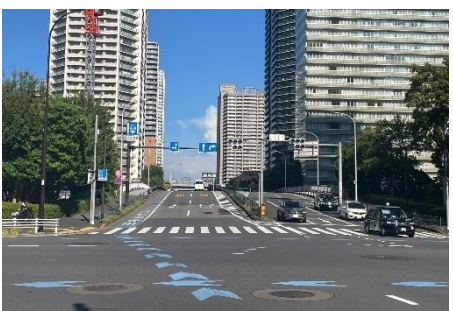
※1 終点位置、一部線形、幅員、延長の変更。立体交差追加
 ※2 起点や幅員の変更等



1. 事業概要(2)



周辺道路の状況



① 旧海岸通りより東側

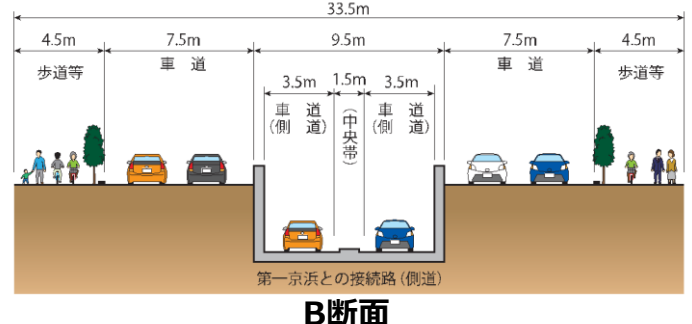
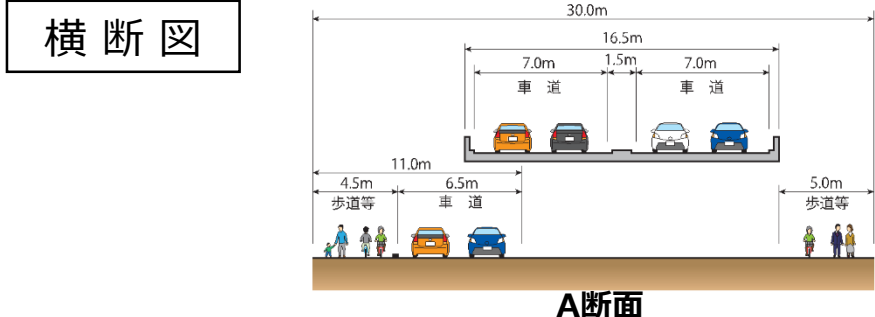
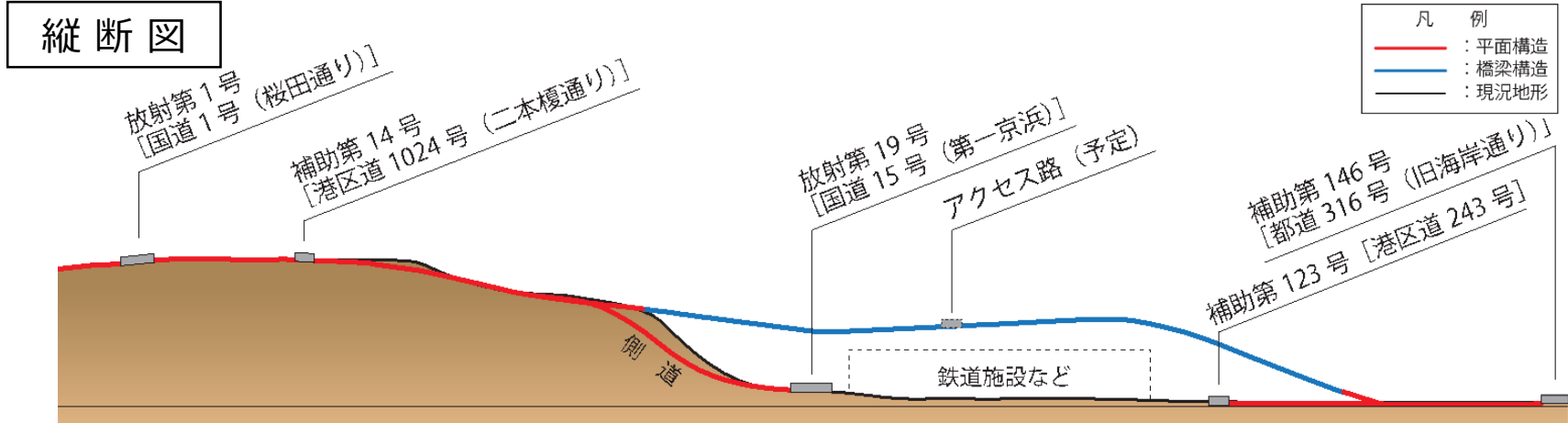


② 桜田通りより西側

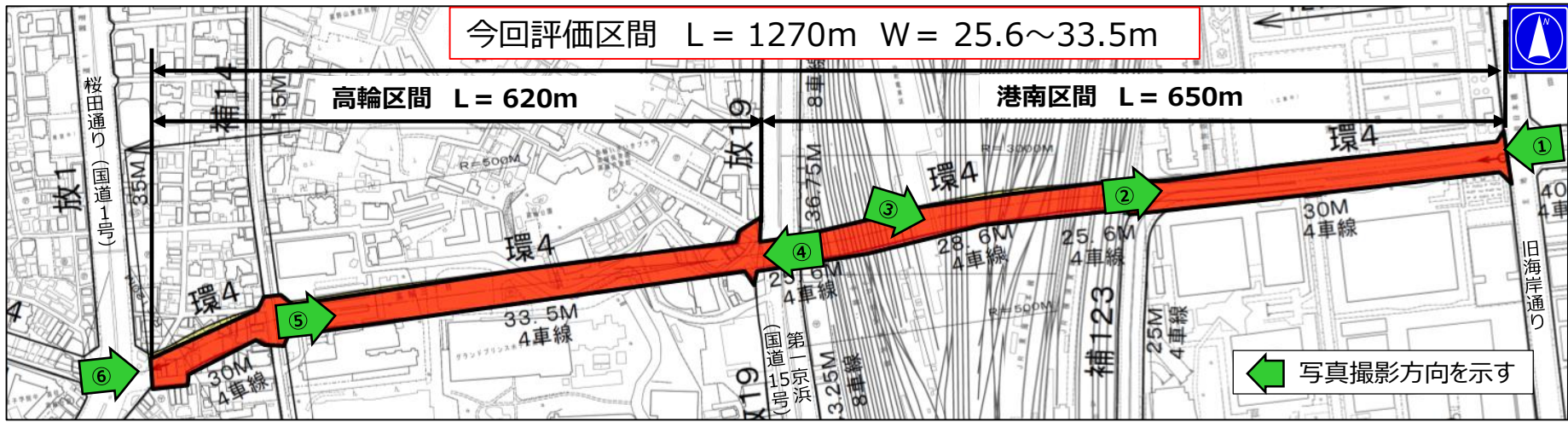
事業の効果

- 体系的な**道路ネットワークの形成**
- 品川駅・田町駅周辺の**まちづくりへの寄与**
- 交通の円滑化と**安全で快適な歩行者・自転車通行空間の創出**
- 緊急車両の速達性向上等による**地域の防災性の向上**

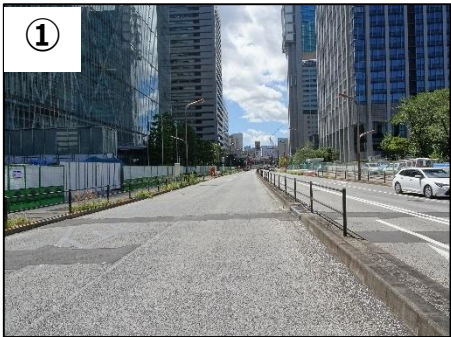
1. 事業概要(3)



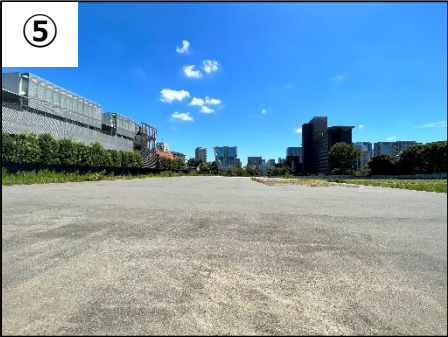
1. 事業概要(4)



[港南区間]
現況

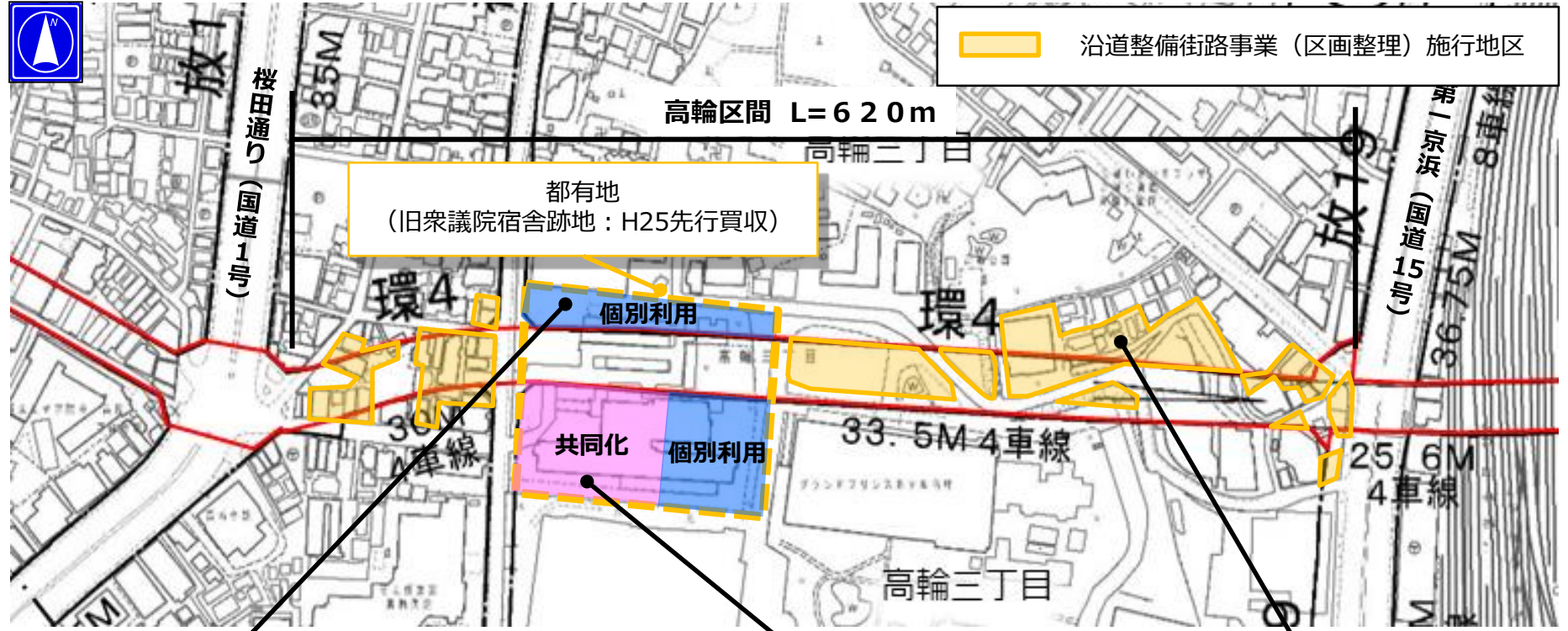


[高輪区間]
現況



1. 事業概要(5)

沿道整備街路事業（区画整理）について（高輪区間）



□ 共有地に移転

沿道整備街路事業（区画整理）により共有地に換地（個別利用）し、補償金等で家屋等を移転します。

□ 共有地で共同化

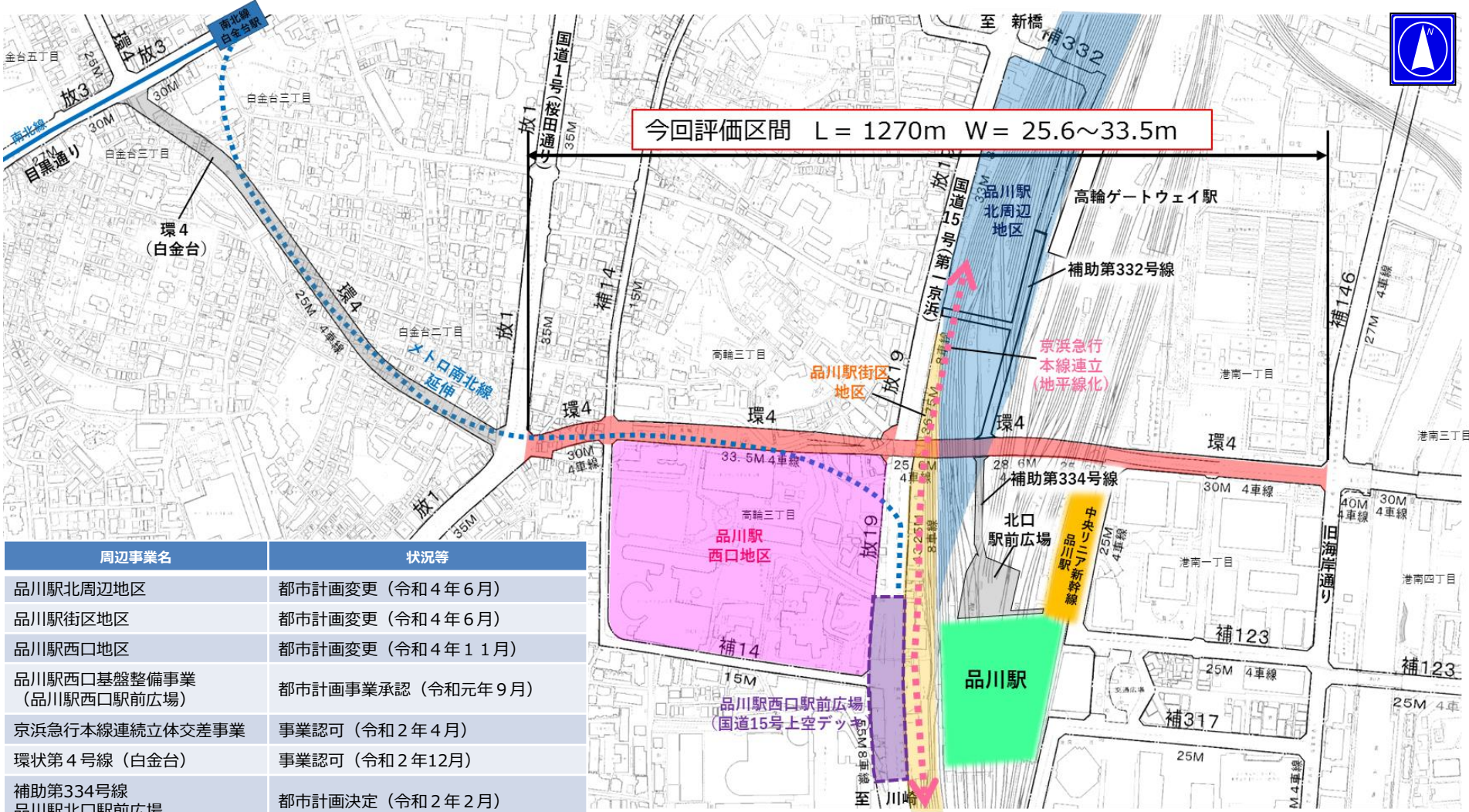
沿道整備街路事業（区画整理）により共有地に集約した換地を敷地として、再開発事業により建物の共同化を図ります。

□ 沿道での建替え

沿道整備街路事業（区画整理）により共有地以外に換地し、補償金等で家屋等を移転します。

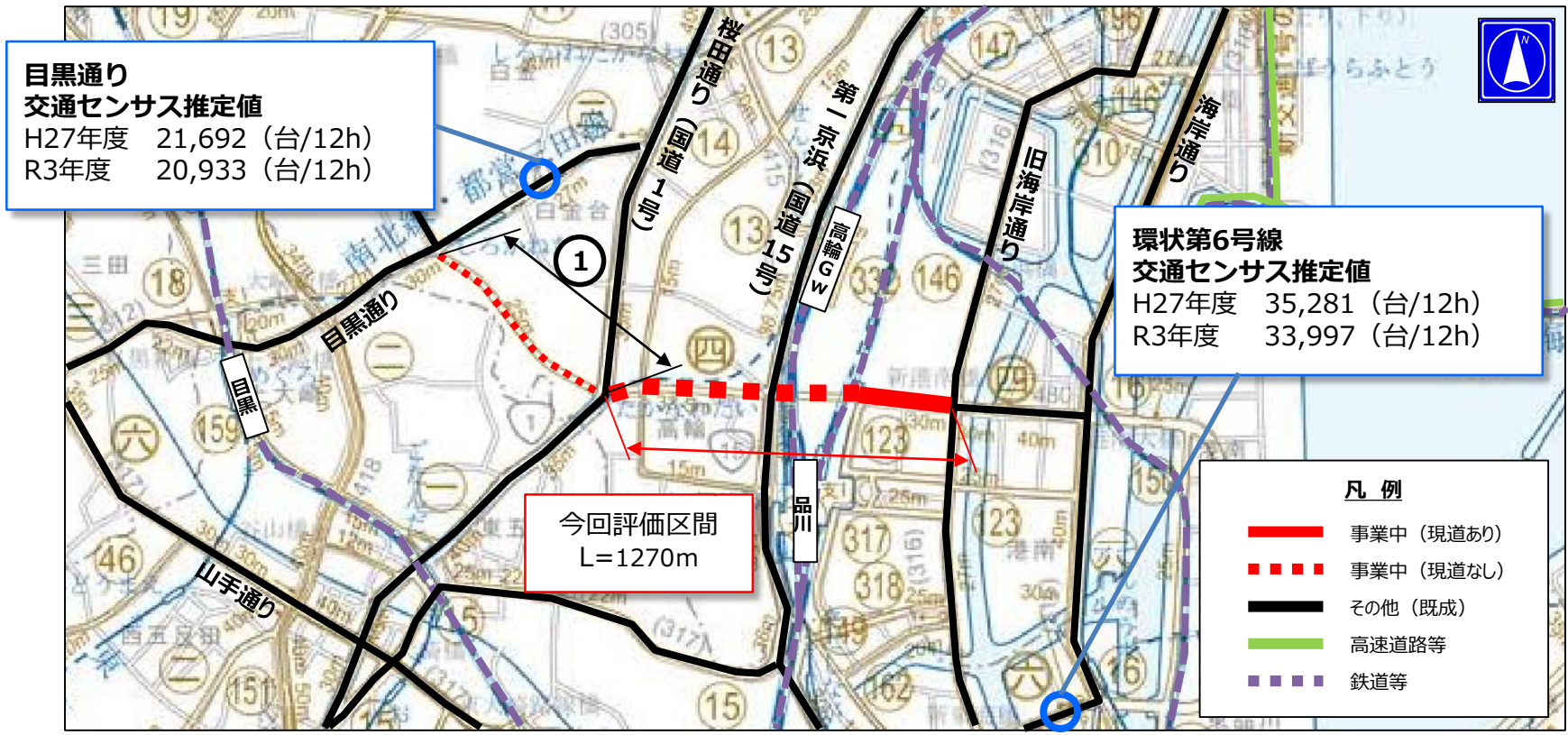
2. 社会経済情勢等の変化(1)

関連する他事業等の進捗状況の変化



周辺事業名	状況等
品川駅北周辺地区	都市計画変更 (令和4年6月)
品川駅街区地区	都市計画変更 (令和4年6月)
品川駅西口地区	都市計画変更 (令和4年11月)
品川駅西口基盤整備事業 (品川駅西口駅前広場)	都市計画事業承認 (令和元年9月)
京浜急行本線連続立体交差事業	事業認可 (令和2年4月)
環状第4号線 (白金台)	事業認可 (令和2年12月)
補助第334号線 品川駅北口駅前広場	都市計画決定 (令和2年2月)
補助第332号線	都市計画変更 (令和2年2月)
東京メトロ南北線延伸	都市計画案説明会実施 (令和5年6月)

2. 社会経済情勢等の変化(2)



社会経済情勢の変化

- 本路線周辺の現況交通量
 - 放3 (目黒通り) におけるR3年度の交通量は、H27年度と比較して横ばい
 - 環6におけるR3年度の交通量は、H27年度と比較して横ばい

関連する他事業等の進捗状況の変化

東京都施行	地区	着手年度	用地	工事
①	環状第4号線 (白金台区間)	R2	2%	未実施

3. 事業の投資効果

定量的効果

【便益（B）の算定】

現在価値化総便益	1083.9億円
走行時間短縮便益	946.1億円
走行経費減少便益	116.8億円
交通事故減少便益	20.9億円

【費用（C）の算定】

現在価値化総費用額	744.2億円
工事費	404.0億円
用地費	332.1億円
維持管理費	8.1億円

※費用便益分析マニュアル（国土交通省 令和4年2月）に基づき分析

【費用便益比（B / C）の算定】

$$\underline{B / C = 1.5 (-)}$$

3. 事業の投資効果

定性的効果

	事項	該当
交通	交通渋滞の解消	○
	物資流動円滑化への寄与	○
	バスの定時性	○
	迂回交通の減少	◎
景観	都市景観の向上	
防災	緊急車両の走行	◎
	延焼遮断	○
	災害時の避難路の確保	○
	消防活動困難地域の解消	○

	事項	該当
くらし	土地利用の転換・高度化	○
	交通不便地域の解消	○
	商業・産業の活性化	◎
	公共施設へのアクセス向上	◎
安全	交通事故の減少	○
	バリアフリー化	○
	自転車や歩行者のための空間確保	◎
	その他	

※該当欄の◎は次頁以降に概要あり

3. 事業の投資効果

定性的効果

〈くらし〉 商業・産業の活性化、公共施設へのアクセス向上
 〈安全〉 自転車や歩行者のための空間確保

■品川駅・田町駅周辺地域は「これからの日本の成長を牽引する**国際交流拠点・品川**」を将来像として掲げている。

■環状第4号線は、地域内外とのビジネス、観光などの**多様な交流を促進させる架け橋(東西交流軸)**として周辺開発事業を横軸で結ぶ重要な役割を担っている。

■本路線の整備及び周辺開発事業との連携により、地区全体の回遊性を向上させる**歩行者ネットワークの強化**が図られる。

凡例

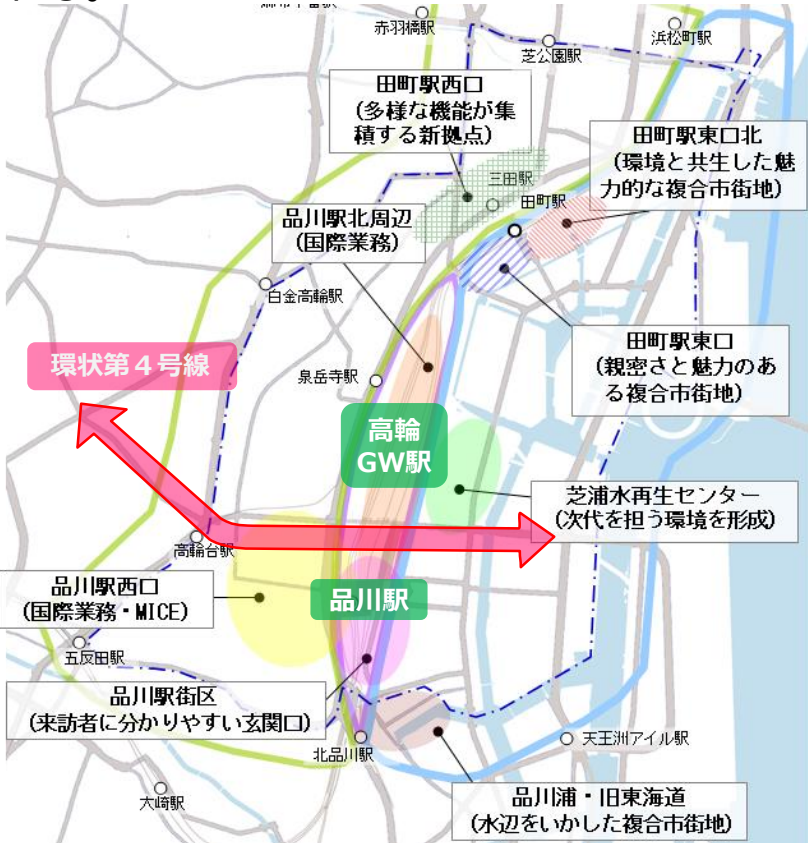
- 品川駅・田町駅周辺地域 (ゾーン)
- 文化と緑のゾーン(高輪側)
- 東西をつなぐ交流のゾーン
- 海と風のゾーン(芝浦港南側)

(優先整備地区)

- 品川駅北周辺
- 品川駅西口
- 芝浦水再生センター
- 品川駅街区

(その他の地区)

- 品川浦・旧東海道
- 田町駅西口
- 田町駅東口北
- 田町駅東口



整備後のイメージ(橋上交差点部)



整備後のイメージ(歩行者デッキ)

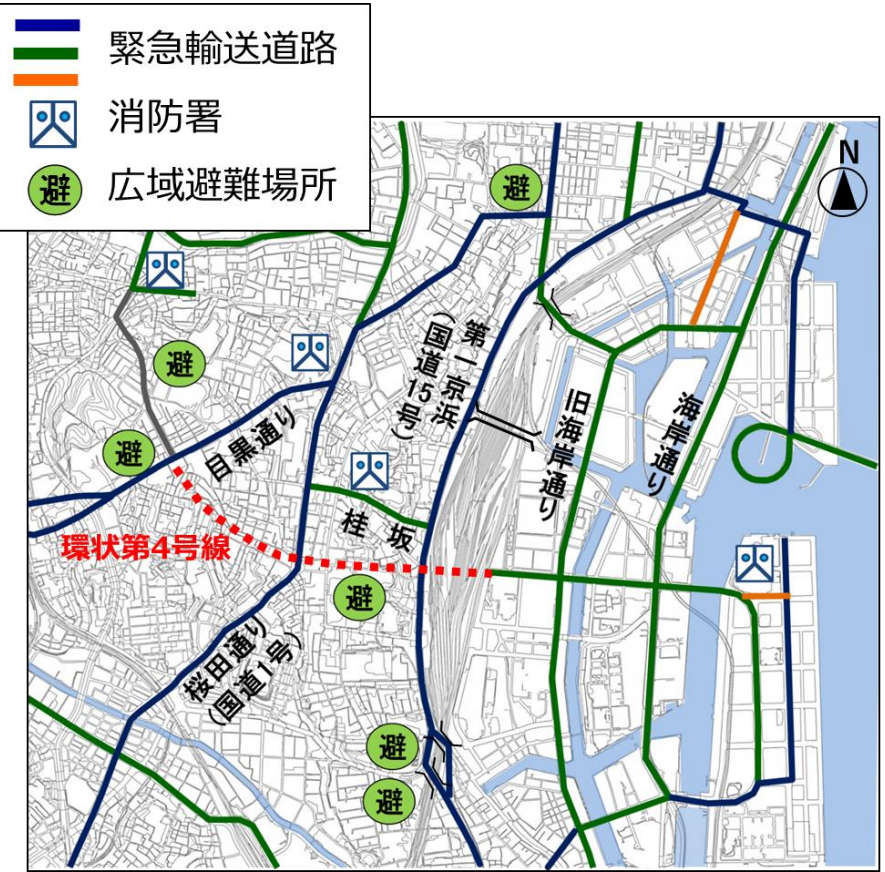
出典: 品川駅・田町駅周辺まちづくりガイドライン2014(平成26年9月)

3. 事業の投資効果

定性的効果

〈交通〉迂回交通の減少
 〈防災〉緊急車両の通行

- 本路線の整備により、鉄道により分断されていた東西方向の連絡が強化され、**緊急車両の速達性が向上**する。
- 幹線道路が整備されることにより、生活道路に流入する通過交通が減少し、身近な道路の**安全性が向上**する。



4. 事業の進捗状況と見込み等

事業費の執行状況

(R4年度末時点 カッコ内は前回評価時点)

	用地費	工事費	合計
全体事業費 (百万円)	39,500 (－)	48,050 (－)	87,550 (－)
執行済額 (百万円)	10,086 (－)	4,930 (－)	15,016 (－)
執行率 (%)	25.5 % (－)	10.3 % (－)	17.2 % (－)

用地取得状況

取得予定面積 (A)	既取得面積 (B)	用地取得率 (B/A)
18,165 m ² (－)	5,954 m ² (－)	32.8 % (－)

4. 事業の進捗状況と見込み等

一定期間を要した背景等

[港南区間]

- 事業認可期間（R元～R14年度）内であり、当初予定通りに事業は進捗している。現在はJRの鉄道部をまたぐ橋梁工事を遅滞なく実施している。

[高輪区間]

- 現道のない新設道路の整備であり、関係権利者も多く交渉に時間を要している。
- 道路の用地取得については用地買収方式だけでなく、土地区画整理事業による換地手法を取り入れることで、関係権利者の意向に基づき、都有地等との土地の交換も選択できる仕組みとしており、合意形成に時間を要している。

残事業の取り組み及び進捗の見通し等

[港南区間]

- 用地取得状況及び関係機関との協議状況を踏まえて、引き続き工事を実施していく。

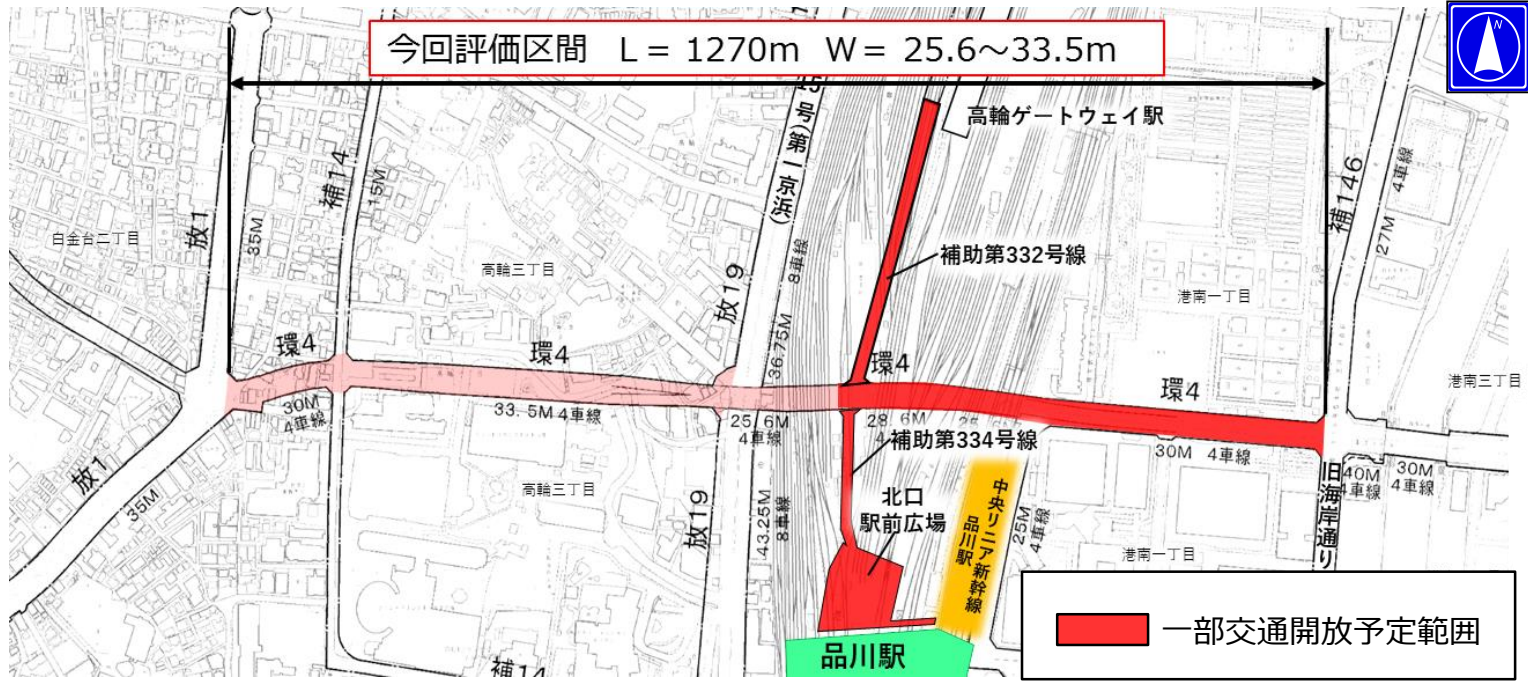
[高輪区間]

- 関係権利者との合意形成を図るべく折衝を進め、土地区画整理事業の早期着手を目指していく。
- 先行用地取得済み部分（都有地）では、関係機関との協議を踏まえ、順次工事に着手する。

5. コスト縮減等

新工法、事業手法、施設規模等の見直しの可能性

- 旧海岸通りから品川駅北口駅前広場の区間において、先行して一部交通開放できるよう、事業効果の早期発現に向けた取り組みを行っている。



コスト縮減の取り組み

- 施工にあたっては、建設発生土の再利用や再生材の使用を行っていく。
- 無電柱化にあたっては、東京都無電柱化計画（R3.6改定）を踏まえ、新材料等を積極的に活用しコスト縮減に取り組む。
- 中温化アスファルトの原則活用を通じ、二酸化炭素の排出量抑制につなげる。

6. 対応方針（原案）

事業の必要性等に関する視点

- 体系的な**道路ネットワークの形成**
- 品川駅・田町駅周辺の**まちづくりへの寄与**
- 交通の円滑化と**安全で快適な歩行者・自転車通行空間の創出**
- 緊急車両の速達性向上等による**地域の防災性の向上**

事業の進捗の見込みの視点

- 関係権利者との合意形成を図るべく折衝を進め、土地区画整理事業の早期着手を目指していく。
- 用地取得状況及び関係機関との協議を踏まえ、順次工事を実施していく。



対応方針（原案） 継続

- 環状第4号線（港南・高輪）は国際交流拠点となる品川駅周辺のまちづくりに寄与し、地域内外との多様な交流を促進させる架け橋となるなど、事業の必要性が高く、早期の効果発現を図ることが適切。
- 中止の場合は、事業効果を発現できないだけでなく、これまでの投資に見合った整備効果も得られなくなる。